

富士山学校科学講座と高所順応トレーニングの10年間の回顧と現況

浅野 勝己（筑波大学名誉教授）

1. はじめに

わがNPO法人・富士山測候所を活用する会の使命の1つとして、社会への教育・啓蒙活動の一環に一富士山学校科学講座—の開講を企画した。

さらに高峰登山者および高所での作業労働を予定される人々への急性高山病予防のための高所順応トレーニングの実施およびその効果機序の解明を試みて来た。

これらの活動について発足以来ほぼ10年にわたる経緯と現況を報告したい。

2. 富士山学校科学講座 —総計12回—

2006年6月に第1回を東京新宿アイランドウイングで三浦雄一郎副理事長の一エベレストへかける夢・究極のアンチエイジング—および小生の一山登りの健康への効用—に約50人の聴衆を得て開講した。次いで7月には山頂での測候所見学をかねた一日本で一番高い山での高山病の話—を32人の参加者に行った。その後、12月まで以下の4氏による講座が都内の会場で20～30人の参加者に対して行われた。

—きつと役立つ山の天気入門—(村山貢司氏)。—越境大気汚染と日本—(畠山史郎氏)。

—黄砂・その謎を追う—(岩坂泰信氏)。—富士山の微生物—(片山葉子氏)。

2007年8月に25人の測候所訪問者に対して高山病の話を行った。

2009年8月に22人の測候所訪問者に従来どりの高山病の講話を行った。

2010年8月に江戸川大学生15人および横浜市立大学生20人の測候所訪問者に対して小林氏、三浦氏、永淵氏、村上氏の各研究者および小生より各研究成果について大気化学、建築学さらに高山病についてわかり易い説明がなされた。

2012年8月に横浜市立大学生29人の測候所訪問者に対し、皆巳氏および小生より夫々大気化学および高山病について講話を行った。

2013年8月にヒマラヤ・トレッキング隊10人に対して高山病の説明を行った。

2014年8月に横浜市立大学生26人の測候所訪問者に小生より高山病についての話をを行った。また翌日にヒマラヤ・トレッキング隊10人に対して高山病について講話した。

3. 高所順応トレーニング —総計6回—

2008年8月、日本山岳協会高知岳連—市村隊長以下隊員10人、2泊3日滞在。

2009年8月、日本山岳協会埼玉岳連—烏隊長以下隊員10人

日本山岳会青年部8人

各2泊3日滞在。

2010年7月、静岡市山岳連盟—出利葉隊長以下13人

2泊3日滞在。

2013年8月 ヒマラヤ・トレッキング隊10人

1泊2日滞在。

2014年8月 ヒマラヤ・トレッキング隊10人

1泊2日滞在。

4. 展望 本科学講座および高所順応トレーニングをさらに発展し永続させていきたい。